PART2　活用・活用形・係り結びの法則

★活用＝形が変わること

（例）「読む」を活用させて（　　）を埋めなさい。

読（　　）ない
読（　　）ます
読（　　）。
読（　　）とき
読（　　）ば
読（　　）！

★活用する品詞＝「**動詞**」・「**形容詞**」・「**形容動詞**」・「**助動詞**」

★活用形＝「**未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形**」

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
読む	ま	み	む	む	め	め

（例）次の傍線部の活用形は？

読み終わる

※活用形を考える時は「　　」を見る。

〔　　　〕

⇐

読み終わる

●〔　（＝　　・　　・　　）〕の上は「　　形」！

〔　　　〕

⇐

読む人

●〔　（＝　　）〕の上は「　　形」！

活用形	下の語
未然形	**ず**（＝ない）
連用形	**用言・けり・たり**（完了）**・て・、**
終止形	。・」・引用の「と」
連体形	**体言**
已然形	**ど・ども**
命令形	。・」・引用の「と」

（例）

読まず。

読みけり。

読むと言ふ。

読みけれども…

問三　次の傍線部の活用形をそれぞれ答えよ。

①　聞きしかど…

②　まうけられたりけり。

③　黄金ある竹を…

④　竹取の翁と a いふ者 b ありけり。

a＝

b＝

⑤　「旅の心をよめ」と言ひければ…

★係り結びの法則

〈係助詞〉

ぞ
なむ
や
か
（ぞ・なむ・や・か）～「　　形」。

こそ ～「　　形」。

（例）

名をば、さかきの造となむいひ<u>ける</u>。

あざ笑ひてこそ立てり<u>けれ</u>。

※まとめ

活用形を考えるときは「　　」を見る。ただし、「。」や「**カッコとじ**」の場合は、ざっと「　　」を確認して「・・・・」があるかどうかを確認する。

あれば、**係り結びの法則**に気を付ける！　なければ、「終止形」か「命令形」。

問四　次の傍線部の活用形をそれぞれ答えよ。

① いとどこそむつからめ。

② 塩尻のやうになむありける。

③ 足ずりをして泣けども、かひなし。

④ 恋ひつつぞ経る。

⑤ 夜更くるまで寝ず。

第2講 PART2 確認問題

①「呼ぶ者あり」の傍線部の活用形として、正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形
エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

②「思はずして」の傍線部の活用形として、正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形
エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

③「帝のおはしければ」の傍線部の活用形として、正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形
エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

④「男ありと言ふ」の傍線部の活用形として、正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形
エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

⑤「川の流れこそはやけれ」の傍線部の活用形として、正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形
エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

第２講　PART２　解答

問三　①　已然形　②　連用形　③　連体形
④　a　連体形　b　連用形　⑤　命令形

問四　①　已然形　②　連体形　③　已然形
④　連体形　⑤　未然形

第2講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 活用形を考える際は、用言に続く部分を確認する。用言に続く部分は「者」＝体言となるので、「連体形」である。

② 用言に続く部分は「ず」となるので、「未然形」である。

③ 用言に続く部分は「けれ（けり）」となるので、「連用形」である。

④ 用言に続く部分は引用の「と」となるので、「終止形」である。

⑤ 上の部分に、已然形で結ぶ係助詞「こそ」がある。「こそ」以外の係助詞は連体形で結ぶ。

〔解答〕

① エ　② ア　③ イ　④ ウ　⑤ オ